

町長選後の5月7日、藤木町長が役場に初当庁すると、職員や町民などが拍手で出迎えました。

藤木町長は「1期目には、町民皆さまを笑顔にしたい。そして、ごもたちの未来を私たちが作らなければいけない。私はその一心で、4年間皆さんとともに歩んできました。2期目は、新しい令和の年から、また新しい御船町が始まります。まず第一に震災からの復旧復興。復旧の最終年度であり、復興の初年度に入ります。町の中には、困っている町民の方々がたくさんいます。この一年間で、この方々を日常の生活に戻していかなければなりません。最後の一人まで住む場所が確保できるように頑張っていきます。復興を通して、人を育む御船町。ここに住み続けることができる御船町を目指します。その中において、大型商業施設の誘致を進めてまいります。これは、御船町が明るい未来へつなげるためのきっかけづくり。今後、企業誘致を進めていくことで、この町に住み続けられるよう、未来を創造して参ります。これからの4年間は、町民皆さまの笑顔のため、そして子どもたちの未来のために、わくわくする御船町を目指します」と訓示。

訓示終了後、藤木町長の掛け声を合図に式参加者が手を握り、「がんばろう」を三唱しました。



コミュニティを  
大切にしたい  
まちづくりを  
目指してー

ふじき まさゆき  
**藤木 正幸** Masayuki Fujiki

profile

昭和40年御船町生まれ。  
第一経済大学（現日本経済大学）経済学部経営学科卒。  
会社役員。元町観光協会会長。  
平成27年に町長に初当選し、今回再選を果たす。



2期目の藤木町政が始動ー

任期満了に伴う、御船町長及び御船町議会議員一般選挙は4月21日、投開票が行われ、現職の藤木正幸町長が多くの支持を得て、2度目の当選を果たしました。

熊本地震から3年ー。震災を乗り越え、実感した「地域の力を大切に、2期目の藤木町政がスタートする。」

投票は4月21日、町内11カ所の投票所で一部の地域を除き、7時から19時まで行われ、多くの有権者が投票を済ませました。20時15分になると、多くの参観人と報道陣が見守

るなか、開票が始まりました。21時55分、開票から1時間40分で町長選の得票数が確定。町議選が22時24分（2時間9分後）に得票数が確定し、当選者が確定しました。

同月22日、御船町選挙管理委員会（横田静也委員長）は、町長選で再選を果たした藤木町長と町議選で当選された14人に当選証書の付与を行いました。付与式では、横田委員長から当選者一人一人に当選証書が付与されました。

町長選の開票結果（定数1-2）			
当	藤木正幸	53	無現② 6,455
	山本孝二	61	無元 3,251

【略歴などの見方】  
氏名、年齢、党派、現新別、丸数字は当選回数、得票数

震災復興計画の確実な実施 I

藤木町政始動ー



① 熊本地震からの復旧復興

～生活再建、施設の復旧～

- ①被災者に対する住まいの確保
- ②道路、橋梁を中心としたインフラの整備。令和元年度で完了予定。
- ③被災農地・施設の復旧工事は、令和元年度を持って完了予定。引き続き自力復旧の継続支援。

③ 防災行政無線の利活用

～災害に強いまちづくり～

- ①防災情報を中心としてさまざまな行政情報伝達。

② 地域力の再生

～コミュニティの再生～

- ①地域を担う人材の育成・支援のため、「地域おこし協力隊」等の積極的な活用。今後、地域再生のためにも新たな仕組みを取り入れながら、「地域愛」の醸成と担い手の発掘を行う。
- ②震災により見送っていた「お伺い行政」への取組みの実施。少子高齢化、特に高齢化の進んだ地域にとって、行政との距離が物理的にも離れてしまった現状を改善し、お年寄りに近い行政を目指す。

地方創生総合戦略の推進 II

藤木町政始動ー



① 御船インター周辺への企業誘致

- ①「復興のシンボル」と位置づけてきた大規模商業施設の誘致実現化。新たな人の流れを呼び込む起爆剤と考え、地域の方々の理解と協力により、令和3年のオープンを目指す。

② 移住定住の促進

- ①積極的な移住定住の促進。熊本地震等による空き家の増加に対し、これまで空き家調査を実施し、空き家バンクを創設した。今後、移住定住希望者に登録物件を紹介し、定住人口の増加につなげる。

② 若者の定住促進のため、「乳幼児および学校教育環境の充実」、「医療機関の充実」、「道路を含めたライフラインの充実」、「公共施設の充実」、「就業機会の確保」等を確実にやっていく。高齢者にとっては、生きがいづくりをはじめ、コミュニティ支援等、健康な暮らしのための施策を行う。

総合計画の策定 III

藤木町政始動ー



① “わくわく”する御船町を目指す

- ①復興する御船町
- ②住み続けたい御船町
- ③人を育む御船町
- ④活力のある御船町
- ⑤人が集う御船町

これらの基本目標を念頭にこれまで行ってきた復旧復興事業を継続しながら地方創生に関する取組みを含め、新たな総合計画を住民主体となって1年間かけて策定する。

